006 うさお

最寄りの駅で列車の遅延がありました。その鉄道会社の責任では無く、連絡する他の鉄道会社の人身事故が原因でした。

駅員のアナウンスはぶっきら棒に、「お急ぎのところ、電車が〇分ほど遅れております。ご迷惑になります。」でした。

何か変な言い方だなって気がしました。本人の言い間違えもあるでしょうが、「ご迷惑をお掛けしています。」だろうね。いつも電車遅延で文句を言われているのに嫌気が差しているところに、降って湧いたようなこの事故。自社の所為じゃないぞって、お客さんと同じ立場に自分たちを置いてしまったんだろうね。つい自分を強者のほうに置こうとする保身本能は、常日頃から**うさお**の得意とするところ。気にしているんですが、つい出ちゃうんだよねえ。「あっ、悪いの！あいつです。〇〇。言ったんですけどねえ。聞かないんだもんなあ。困っちゃいますよ！でしょ！でしょ！」すっげえ、得意です！！

ダブル・スチール	藤田宜永	パリのオペラ通りの日本料理店主、本多陽一郎はかつてはプロ野球の投手だったが、賭博事件から八百長の汚名をきせられ球界を追われた。妻の借金不祥事もあり、日本を去って十八年、今ではパリの暗黒街に身を置くことに。本多はミッシェル寺井という一人の少年と出逢った。本多は寺井をプロ投手として育てあげ、やがて日本の球界にデビューさせる野望を持った。	☆☆ 文章力はあるのだけど設定が強引だなあ。パリの暗黒街に身を置きながら日本プロ野球に情熱を示すことや、恋人の父が八百長をした奴に娘はやれんなど嘘っぽいよ。僕は平気だよ。娘あげちゃう。
邪魔	奥田英朗	スーパーのパートの及川恭子は平凡な主婦だったが、夫の放火事件を境に生活も性格も変わっていく。警部補九野薫は、7年前に最愛の妻を事故でなくし、義母を心の支えとしながら、同僚・花村の素行調査と放火容疑者・及川を追い求める。でもちょいと話が長い。	☆☆ この警部補が精神を病んでいて、義母は死んでいるに電話で話しかける。こりゃあ警察でも変な目で見られるな。
活路	北方謙三	旗本小普請組の晴気竜行は、友のため刺客の仕事を引き受けた。丹後田辺藩の重臣の暗殺に成功したのだが、救うべき友は謎の自害をし、すでに果てていた。その謎を追いながら刺客として生きることになった。	☆☆☆ いつも作品に不必要な力みがある。それは物語の深みかもしれないが、底が浅いって感じで好きになれない。
八州廻り桑山十兵衛	佐藤雅美	関東取締役出役、通称“八州廻り”の桑山十兵衛は事件を追って諸国奔走の日々を送るのだが余禄を普通に得るタイプだ。亡き妻の意外な密通相手を突き止めてしまった彼は悩む。愛娘の真の父親とは誰なのだろうか。	☆☆☆ 賄賂の代名詞のような八州様。羨ましい。裕福なたそがれ清兵衛だ。でも哀愁は無い。
ハサミ男	殊能将之	入念な調査の後、美少女だけを殺害し、研ぎあげたハサミを首に突き立てる猟奇殺人犯「ハサミ男」。三番目の犠牲者を決め、襲う直前に自分の手口で殺された彼女を自分が発見することに。誰が彼女を殺したのか。「ハサミ男」は調査をはじめることにした。	☆☆☆☆ 読んで 1/10 ではさみ男の秘密が判ってしまった。1/5 で犯人も判ってしまった。でもまあ、語り口がいいから読めますけど･･･。
ギャングスター・レッスン	垣根涼介	百人を擁する渋谷のチーマーのヘッドだったアキは、チームを解散させ、犯罪プロ集団にヘッドハンティングされた。犯罪の前にあらゆる犯罪テクニックを習得する過酷なトレーニングが待ち受けていた。	☆☆☆☆ チーマーの時の話はまったく出てこないが、乾いた感じの書き味でずいぶんと好みだって判ったよ。
炎の影	香納諒一	下っ端ヤクザの公平に、刑事だった父の死去の報せが届く。父が手掛けていたリゾート開発の暴力団事件を、跡を継ぐように事件を追いかけるようになった。	☆☆☆ 香納氏は面白いのと詰まんないのとの差が激しい。これは善い方かな。

ドリームタイム	田口ランディ	ピエロ男、トイレの神様、フリーダ・カーロの女、亡くなった母親や、初恋の男…が現われて、ときには涙にくれたりする夜を過ごす。千夜一夜物語を髣髴とさせる13の夜の物語。女のどろどろさが紛段に塗されている。	☆☆☆☆ 少し不得意な分野の物語、女のどろって部分を見せられると男って少し引いちゃうぞ。
ブラッド	倉阪鬼一郎	子猫や子犬を殺す。善い人も、悪い人も、子供も大人も、殺して殺して殺し抜く。死体の山を築いて爆走する戦慄のローラーコースター。いやに単調なメロディの童謡が耳につく。俺の枕もとで歌うんじゃない。	★彡 評価ダウンの★ね！ オッタキーな文章、プロット。残念、こんなの借りちゃって。タイトルと装丁は内容とは合わせて欲しいものだね。

前回は読んだ本が沢山あった。って言うか、図書館に本を返さないで読んでいたのが原因かな。仕事が忙しいと電車の行き帰りには頭を休めたいので、あまり罪の無い話ばかり選んで読んでいるいるよ。だから話の筋なんて本当に覚えていないんだよ。読んだ傍からぽろぽろ忘れていくんだもの。

だから読書リストはかなり嫌いだ。「相談役にはなるけど読書リストは嫌だからね！」は当初の言葉。途中からは横這入りした割に今や読書数だけは可成の数になるようだ。中身が **Tomy Jr.**さんのように濃くないのが、**うさお**っぽいところかな。

さて、田口ランディの著書をこのところ良く読んでいます。**TICA** さんや **Cacco** が読んでいるので、横取りをしながら読んだんですけどね。この作家さんは正体不明の作家さんらしい。最初男の人かと思っちゃいました。この人と桜井亜美については、そのうち **Cacco** が掘り下げるそうなのでそれはそれで期待するとして、所謂、覆面作家と言うのは結構興味のあるものです。**日出彦**さんあたりは、結構一家言あるでしょうね、ミステリィー・マニアとして。

覆面作家と言えば、北村 薫でしょうね。本名は宮本 和男と言います。地元、埼玉県立春日部高等学校の国語教師をしていましたが、『空飛ぶ馬』、『夜の蝉』を覆面作家として出しました。最初の頃はその女性ぽい書きっぷりから女子大生ではないかと思われていたらしいです。

彩胡ジュンは著名な推理作家二人によるペンネームでした。著者あてクイズが催されるなど、話題には事欠かずネットでも騒がれたそうです。今では二階堂黎人と愛川晶だったということが知られています。哀川翔じゃあありませんよ。また、覆面作家と言うことでもありませんでしたが、岡島二人は井上泉と徳山諄一の合作でありました。ペンネームは「おかしな二人」と読みます。エラリークイーンもフレデリック・ダネイとマンフレッド・B・リーの二人でした。話が逸れて来ちゃったけど、覆面作家と言うことでバーナビー・ロスが居ましたって言いたかったんです。

今回読んだ中でも、殊能将之は覆面作家でした。ペンネームは漢文の『楚辞』の一編、屈原の「天間」より殊能将レ之（特殊な才能でこれ“軍勢”を率いる）から来ているそうな。あとがきの中でもこの人はエッセイストで有名な誰某であろうと書かれていますが、誰某がさっぱり判りません。誰なんでしょう。話は面白かったし、「はさみ男」は映画にもなったみたいだし、うん、ちょいと知りたい気がしますな。

覆面作家の舞城王太郎は徹底していて、デビューしてから後、公の場に姿を現さず、顔写真も経歴も明かしていません。春樹チルドレン（意味が判らんとです。）とも言われているそうです。その際たるものが、三島由紀夫賞の授賞式に欠席したことでしょう。同賞の受賞者で式典に欠席したものは皆無だったので大変な話題でした。太田忠司だって説があります・・・。

最期に鯨統一郎も推理作家でＳＦ作家で覆面作家です。（笑）この人の「邪馬台国はどこですか？」は牽強付会でとんでもない史実が見えてくる話なのですが、こういうのは梅原猛的で大好きなので、これは一遍、読んでみようっと。

覆面作家の特集は**日出彦**さんあたりにお願いしたいテーマだなあ。